

ながく ぼ せきすい
長久保 赤水 (1717~1801)



高萩市歴史民俗資料館 所蔵

江戸時代中期の地理学者・儒学者。

ひたちなかのくに
常陸国多賀郡赤浜村(現:茨城県高萩市)の農家の生まれ。

農民でありながらも幼少時より勉学に励み、儒学や天文学、地理学などを学び、水戸藩に表彰されるほど優秀な人物であった。

35歳頃より地図を作り始める。江戸中期になると旅に出る者も増えてきたが、当時庶民が使える正確な地図はなかった。人の役に立ちたいと勉学に励んでいた赤水は、地図作りを決意する。

61歳で水戸藩主 徳川治保はるもり じこうの侍講(直接勉強を教える役目)に抜擢され、江戸に移り住む。江戸でも地図作りに必要な情報収集を重ね、63歳の時に「改正日本輿地路程全図」(通称「赤水図」)を完成させる。色彩も豊かで実用性に富んだ「赤水図」は多くの人に愛用され、明治初頭まで約100年にわたり出版され続けた。一方、「伊能図」は幕府の機密事項であったため一般の人が目にするのではなく、江戸時代の庶民にとって日本地図といえば、この「赤水図」であった。

赤水が85歳で亡くなった10日後に伊能忠敬は赤浜村を通り、「ここは赤水の出身地である」と『測量日記』に記し敬意を表している。

赤水の名言

学問のない者は百歳を経ても生きた甲斐はない

いのう ただたか
伊能 忠敬 (1745~1818)



千葉県香取市 伊能忠敬記念館 所蔵

江戸時代後期の地理学者・天文学者。

かずさのくに
上総国山辺郡小関村(現:千葉県山武郡九十九里町)の農家の生まれ。

18歳の時、下総国香取郡佐原村(現:千葉県香取市)で酒造業を営む伊能家の婿養子となった。忠敬は商才を発揮し、運送業や金融業なども手がけて伊能家を繁栄させる傍ら、名主として村の取りまとめ役、世話役としても活躍し、天明の飢饉の時には村人の救済にも尽力した。

天文学に興味を抱いていた忠敬は50歳で家督を譲ると、51歳で江戸に出て幕府天文方 高橋至時よしときに弟子入りをする。

忠敬は緯度1度を求めるため(地球の大きさを知るため)の口実として「蝦夷地測量」を行ったことがきっかけとなり、その後17年もの歳月をかけて全国を全10回にわたって測量することとなる。測量隊の総移動距離は約4万km、およそ地球一周分に及んだ。

忠敬は完成図を見ることなく、74歳でこの世を去ったが、その3年後、弟子たちによって「大日本沿海輿地全図」(通称「伊能図」)が幕府へ上呈された。「伊能図」は地球が球体であることも加味して描かれた精密な地図である。その正確さから江戸時代は幕府の機密事項とされていたが、明治以降に活用され、日本の近代化を支える地図となっていた。

忠敬の名言

人間は夢を持ち前へ歩き続ける限り、余生はいらない